



No.135



お弁当作りの様子【生活学館 足立校】



すだちの里すぎなみ【杉並育成園すだちの里すぎなみ】



学校のような雰囲気のお部屋【生活学館 足立校】



喫茶店で美味しいパンを販売しています【杉並育成園すだちの里すぎなみ】

INDEX

第16回東京大集会 …………… 2	人権擁護委員会「じんけん Board」 …………… 8
令和4年度第2回総会報告…………… 3	施設紹介「杉並育成園すだちの里すぎなみ」…………… 10
障害者週間記念行事…………… 4	施設紹介「生活学館 足立校」…………… 11
児童施設分科会 施設紹介・実践発表会…………… 6	リレーコラム、編集後記…………… 12
3年目職員研修…………… 7	

●発行者 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ (<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>) からご覧いただけます。



第16回東京大集会

広報委員 芦澤 宏樹（原町成年寮）

今大会で第16回目を迎える「東京大集会」は、コロナの影響により一同に会すことは叶わず、昨年度に引き続き、主催6団体からの発表動画や、東京都議会からのビデオメッセージなどを特設サイトにて公開する形での開催となりました。
【特設サイト公開期間：2022年10月17日（月）～2022年11月16日（水）】

■都議会各会派に、「生活の場の確保」をテーマに、以下6つの質問を投げかけました。

1. 都内のグループホームの支援の質を保つには、何が鍵となりますか。
2. 障害者支援施設を増やすことに賛成でしょうか。
3. グループホームを23区内でも増やすようにするには、どのような対策がございませうか。
4. 23区内の強度行動障害の人の住む場所、支援の場の確保にどう取り組めますか。
5. 医療的ケアの必要な利用者の住まいの場の確保にはどう取り組めますか。
6. 都外独占・協定施設は、東京都民が利用する障害者支援施設の約五割を占めています。現在、この都外独占・協定施設以外の他県が認可設置した施設やグループホームへ多くの都民が流失しています。このような実態の解決にどう取り組めますか。

また、主催6団体からの発表動画は、各10分

程ではありますが、障害を持つ当事者の生活の様子などが非常にわかりやすくまとまっており、動画配信ならではの工夫や見やすさを感じられました。生活の場の確保・選択をすることの難しさもありますが、利用者自身に合う生活を見つけるために、ご家族・支援者の方々の支えや、さまざまな社会資源等を活用しながら、生活しやすい環境をつくっていくことが大切だと改めて感じました。

そして、より良い生活をして頂くためのご家族・支援者・行政の方々の努力が利用者様の笑顔とやりがいのある生活に結びついているということを実感しました。

最後に、主催6団体からのアピール文について、表題のみご紹介いたします。

- ① 知的・発達障害児・者の人権を守り、権利を擁護してください。
- ② 知的・発達障害児・者の暮らしの場を抜本的に整備してください。
- ③ 障害者が安心して暮らせる仕組みを作ってください。
- ④ 障害者への理解促進及び差別解消のための東京都条例の精神が広く都民及び民間事業者に理解されるよう、普及に努めてください。

■主催6団体…東京都手をつなぐ育成会、日本ダウン症協会、東京知的障害児・者入所施設保護者会連絡協議会、東京都自閉症協会、東京都発達障害支援協会、東社協・知的発達障害部会

令和4年度 第2回総会報告

広報委員 小川 毅 (すぎな会 愛育寮)

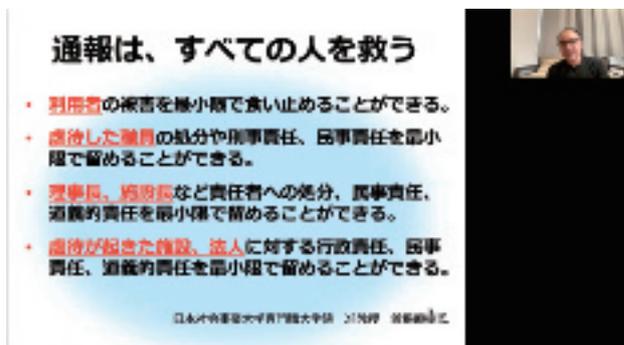
令和4年度の第2回総会も前回と同じくWebにて開催されました。「議決事項」「報告事項」「講演」については、総会資料を郵送するとともに、令和4年10月26日(水)～令和4年11月1日(火)の期間、部会会員専用ホームページ上にて説明動画を公開。「議決事項」は文書審議にて決議を採りました。また、総会とあわせて開催された「東京都の行政説明」は令和4年10月27日(木)10時00分～11時25分にZOOMウェビナーにてライブ配信されました。

●議決事項

利用者支援研究会 運営要項の一部改正について(利用者支援研究会運営委員会の)定期会議は、知的発達障害部会の定期総会をもって開催とする。」に改正するという案が提出されました。後日文書審議にて決議を採り、過半数の承認を得られたため可決されました。

●報告事項

- ①令和5年度東京都予算に関する要望書の提出について
 - ②令和4年度上期事業報告および下期事業計画について
 - ③知的発達障害部会 役員選出基準について
 - ④東社協 災害時被害状況等把握システムの運用について
 - ⑤感染症対策衛生用品の備蓄および、災害等見舞金のご案内
- それぞれの事項について、各担当者から説明がありました。



記念講演 (片桐氏)

●記念講演

「権利擁護と虐待防止～何をどう取り組むか～」について、社会福祉法人みんなでいきる 理事 片桐公彦 氏にご講演をいただきました。障害者虐待の早期発見と通報義務・通報者の保護について、刑法が一部改正されたことの概要、障害者虐待対応状況の調査(令和2年度)、やむを得ず身体拘束をおこなう時の留意点などについてお話がありました。虐待の捉え方として「虐待している自覚」や「虐待されている自覚」は問わないという点は、とても大切だと思いました。貴重なご講演ありがとうございました。

●東京都の行政説明

1. 計画課からの報告事項として、(1) 日中活動系サービス推進事業のメニュー選択式加算見直し案について(2) 障害福祉サービス事業所物価高騰緊急対策事業について説明がありました。
2. 主要事業について、10の項目についての説明がありました。
3. 連絡事項として、(1) 施設における事故・虐待防止の徹底について(2) 事故報告、感染報告、問い合わせ事項のフォーム化について説明がありました。

障害者週間記念行事 “ゲンキノカタマリ2”

文化・芸術活動支援特別委員会 委員長 大浦 孝啓

〈オンラインアート展「ゲンキノカタマリ2」〉

“ゲンキノカタマリ2”では、短い応募期間にも関わらず170点以上の作品が集まり、プロカメラマンによる撮影を行いました。また、今年は趣向を変え、作品だけでなく、実際に作品を制作しているご利用者の方を撮影したり、実際の事業所にお邪魔し、創作活動の現場や支援者のインタビュー撮影なども行い、かなりのボリュームに仕上がっています。

「障害者週間記念特設サイト」にて、“ゲンキノカタマリ2”を含むさまざまなコンテンツを配信しています。盛りだくさんの内容となっていますので、ぜひご覧ください。



「ゲンキノカタマリ2」特設サイト公開中！



「ゲンキノカタマリ2」映像撮影風景



「ゲンキノカタマリ2」映像撮影風景

【障害者週間記念特設サイト】
公開期間：2023年3月31日まで



障害者週間記念特設サイト 検索

“Session! Tokyo 2022”

障害者週間記念行事

11月24日（木）～26日（土）、障害者週間記念行事“Session! TOKYO 2022”を飯田橋セントラルプラザにて開催しました。今年は平日を合わせて3日間、都内事業所の出店や、「ゲンキノカタマリ2」に出展いただいたアート作品のパネル展示をしました。



児童施設分科会「施設紹介・実践発表会」報告

代表幹事 佐々木 宣子

児童施設分科会では、平成30年度から、施設の職員による「実践発表会」を実施してきました。開始当初は会員施設だけでなく、大学や短大、専門学校への参加をよびかけ、土曜日に会場で行っていました。令和2年度はコロナ禍により中止、令和3年度より「オンラインで会員施設のみを対象」とし、別に企画していた“施設見学会”の要素をプラスする形で「施設紹介・実践発表会」としています。オンライン開催となり、会員施設からの参加者は2～3割増加しました。日常業務以外になかなか時間が取れない職員の皆さんにとっては、移動時間のない研修は参加しやすい点もあると思われます。また、“施設紹介”の要素が加わることで、施設として何を大切にしているのか、実際に支援にあたっている職員の皆さんが言葉にして伝えてくださることにこの研修の良さを感じています。今年度のご発表は以下の通りです。

「令和4年度 児童施設分科会 施設紹介・実践発表会」
令和4年10月28日(金) 15:00～16:30 オンライン開催

参加者56名

発表① 「子どもたちが楽しく生活できるようにわたしたちの
できること」

清水 七瀬氏(保育士)
社会福祉法人友愛学園 友愛学園児童部
【障害児入所支援】

発表② 「グループ療育での取り組みについて」

内山 士氏(児童指導員)・笹川 遥菜氏(作業療法士)
社会福祉法人正夢の会 中野区療育センターゆめなりあ
【放課後等デイサービス】

ご発表いただきました職員の皆様、ご準備を含め、本当にありがとうございました。参加者の皆さんも熱心に耳を傾けていただき、アンケートにたくさんの感想をいただきました。一部を紹介させていただきます。またの機会に共に学びましょう！



<アンケートより>

☆学校と連携しながら、一人ひとりのお子様を、点ではなく面で支えている点が印象的でした。
☆同様に入所施設に身を置くものとして、共感できる部分、そして勉強になる部分がたくさんありました。「スタッフもワクワクドキドキする」や「一緒にいることを大切に」など印象的だったキーワードが多くありますが、そのすべての根底に「子どもたちを大切に见守る」という意思が感じられ、利用者様にとっても、支援者にとっても、非常に素敵な場所なんだろうなと感じました。

<アンケートより>

☆お子さん一人ひとりに合わせた支援がとても細やかにちりばめられており、今後の支援に生かさせていただきたいな、と思う発表でした。また、職員だけでなく、お子さん同士のコミュニケーションの場も多く取り入れられている点も興味深かったです。
☆私の働いている施設でも机上課題や音楽療法、PTでの運動療法はありますが、使う道具の違いも写真があることで違いが大変分かりやすく、また、時間や体制が限られている中でも一人ひとりにあった支援を行っていく重要性をより強く感じました。

「3年目職員研修」について

研修委員 齋藤 小夏（メイプルガーデン）

令和4年9月2日（金）と10月7日（金）の2日間にわたり、研修委員会主催の「3年目職員研修」が行われました。今回の研修は、新型コロナウイルスが流行してから行うことができず、約3年ぶりの開催となりました。

今回の研修は、「気持ちを整え直す～三年目のあなたへ～」という目的を掲げ、1日目は、グループ内で自己紹介をし、気持ちの共有を行いました。気持ちの共有とは、「過去」「現在」「未来」の3つに分け、「過去」では福祉の仕事を選んだ理由ややってきたことを、「現在」では今の自分の課題を、「未来」では今度取り組みたいことを個人で考え、グループ内で共有しました。そして、「現在」「未来」の中から「2回目の研修までに自分が行うこと」を宣言しました。

その後、社会福祉法人南風会 シャロームみなみ風施設長 廣川美也子氏に「傾聴研修基礎編～信頼される（好感を持たれる）支援者を目指して～」の講義をしていただきました。

講義では、傾聴の基本や効果を学びました。話を聞く時の基本姿勢や、やってはいけないこと、傾聴ができるようになると人間関係やクレーム対応に効果があることを知り、改めて傾聴の大切さを実感しました。

講義のあとは、傾聴のワークを行いました。事例や廣川氏の話聞いて頭に浮かんだこと

を書き出し、書いた中で「相手の感情」と「自分の感情」を区別しました。傾聴スキル向上の為に「自分の感情を棚に上げる」ことが重要で、それができることにより、話を聴くことが楽になったり、相手や自分を傷つけなくなったりすることを学びました。このワークは普段から練習することができるので、傾聴スキルアップに向けて日々特訓していきたいです。

2日目は、1日目で宣言した「2回目の研修までに自分が行うこと」が実践できたかの報告をグループで行った後、パネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、3名の先輩職員が入職してから現在に至るまでの挫折や葛藤、どのように乗り越えてきたのかを発表していただきました。「自分だけじゃないんだ」と多くの方が感じたのではないかと思います。

その後は質問コーナーを行い、今後仕事をしていく上での大切なこと、人間関係等、様々な質問に研修委員が答え、最後はグループでこの研修の感想を話し合いました。

「3年目の壁」と言われるほど、3年目は役割や立場が変わったり、人間関係で悩んだり、悩みを抱える時期だと思います。今回の研修を通して、他施設の人と話したり、先輩職員からのアドバイスを受けたりすることで、少しでも気持ちに変化があるといいなと思います。

じんけん Board



わたしの



ホッと

支援を通した利用者とのかかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

常勤職員と非常勤職員のメモのやりとりがありました。入所施設の場合、変則勤務なのでなかなかタイミングが合わない中、担当職員にしっかりと伝わりとても良い取り組みだと思いました。

いつも丁寧な引継ぎをしてくださる職員さん。不安の中とても心強かったです。

定時の時間にジュース購入ができなかった利用者に対して、夕食後にさらっと対応して下さった職員さん。さすがです！

積極的にゴミ捨てや物品を補充してくれる職員。見えない所での気遣いもあり素敵です。

記録業務をやりようとしたところ、既に気を利かせて記録をやって下さった職員さん。いつも動きをみて気にかけて下さる姿見習います。

ユニット内に季節に合った装飾を作っている職員さん。季節感が味わえて素敵です。

高揚しているご利用者に対してとても穏やかに接していた職員さん。ご利用者の安心に繋がっていると思います。

ご利用者への聞き取りの際に、視覚的に分かりやすくイラスト一覧を作成していて、ご利用者に寄り添った支援が素敵だと思いました。

戸惑いが多いご利用者に対して、傾聴と受容をしっかり行った上で職員側の思いを伝えている場面をみました。こうした丁寧な支援がご利用者との信頼関係の構築に繋がるのだと実感します。

ご利用者の拘り行動に対して、気分転換にウォーキングを提案・実施して下さいました。結果、ご利用者は気持ちの切り替えができ、とてもありがたかったです。

支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

『今』抜けて
大丈夫かを
考える
作：まじぼっくり

作品背景
よく「少し離れます」と言い残して担当現場から別フロアへ移動する支援員を見かけますが、支援員が離れた後、利用者さんがフリーになってしまい現場の体制が混乱するという場面がありました。担当現場から離れる際は①担当利用者の引き継ぎをしたのか②自分が抜けて、現場の体制は維持できるのか、本当に「今」でなければいけないのか、など考えてから動くべきだと思います。

先回り
本当はそれ
誰の為
作：ちえき

作品背景
支援の中ではついその人の為と先回りをしてしまいがちですが、実はトラブルを避けたい自分達の為というところもあるのでは。

他フロアを
経験すると
広がる視点
作：どんぐり

作品背景
普段は別フロアを担当している支援員が応援職員として勤務してくれました。別の視点から見て感じたことや、もっとこうしたら利用者さんは喜んでくれるのではないかなど、などを共有していただき、活動や関わり方の幅が広がりました。

「まだ、できる!」
隠れた本音を
読み取って
作：ポムポム

作品背景
受注作業を一生懸命取り組んでくれるAさん。納期が近いことを理解しているからこそ、「まだできるよ!次(の作業)ください」と昼休み返上で取り組んでくれますが、後になって体調不良になったり「ほんとは疲れてただけ!」と話す姿を見ると、本人の「できる」という言葉の裏に隠れた本音を表情や仕草から読み取って、「無理のない範囲で取り組んでもらう」や「休憩を促す」などの提案を支援員はしていくべきだなと感じました。

入選作品

新鮮な
風を吹き込む
実習生
作：たき火

作品背景
毎年来ていた相談援助実習生や介護等体験の学生さんが、3年ぶりに施設に来るようになって、利用者の皆さんが嬉しそうです。新たな人間関係においてドキドキから始まりますが、数日たつと楽しそうに話しているのです。

意思決定
いつも右指す
二者択一
作：虫はかせ

作品背景
意思表出を促す支援として選択機会を増やすように心がけ、二者択一してもらおうと決まって指すのは「右」。左右並べての二者択一ではダメなことを知る。

最優秀作品

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて! 私の支援間違っていない?」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします(その旨記載してください)。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

FAXの場合

03-3268-0635
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局
chiteki@tcs.w.tvac.or.jp宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

施設紹介 杉並育成園すだちの里すぎなみ

すだちの里すぎなみは杉並区今川の閑静な住宅街にある障害者支援施設です。施設入所支援、短期入所、就労移行支援、自立訓練、生活介護の事業を展開しています。「地域で暮らそう！」をスローガンに掲げ、地域移行支援に取り組んでいます。平成18年に開所してこれまでに、94名の方がすだちの里を卒業して、すだちでいられました。7割の方がグループホームへ移行され、移行先は40ヶ所近くとなります。最近では一人暮らしに移行された方もいます。

【多様なサービス利用の形態】

すだちの里のサービス利用形態は多様です。①一体型(夜間日中ともにすだちの里)、②体験型(夜間はすだちの里、日中は他事業所へ通所)、③日中サービスの利用(自宅やGHからすだちの里へ通所)の3つがあり、利用者の方それぞれのニーズによってサービス選択がなされています。杉並区所管の方は月5時間(施設在籍時利用)の移動支援の支給を受ける事ができます。すだちの里在籍中から施設職員以外の支援者と外出する練習をして、ヘルパーとの関係性を構築します。地域生

活へ移行したその日から、顔なじみのヘルパーと一緒に外出することができます。このようなサービス利用の多様性や移動支援が利用出来ることも、地域移行を実現していく為の大切な仕組みです。

入所期間中に地域生活のニーズや障害特性のアセスメント、支援情報の整理等を行います。グループホームの見学や宿泊を体験し、住環境や支援体制、日中事業所の選択、土日の過ごし方等々を確認します。

【地域生活への移行】

いよいよ地域生活へ移行される時、「卒業の会」を開いています。「今日引っ越しします」「おめでとう。また遊びに来て」と嬉しさと寂しさの入り混じった時間です。土日や祝日は、すだちの里を卒業された方が遊びにくることもあります。

ご本人を中心に、家族・行政・特定相談支援事業所等関係各所と連携して、住み慣れた地域で安心して生活できることを大切に、地域生活への移行支援を行っています。



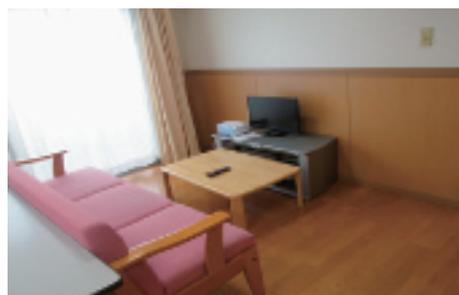
すだちの里すぎなみ



移動支援を利用して外出



喫茶店で美味しいパンを販売しています



生活スペース

施設紹介

生活学館足立校

就労移行支援所 生活学館足立校とは

障がいがある方の2年間の職業トレーニング場所です。



生活学館足立校は、社会福祉法人つくしの郷の新しい施設として2021年3月に足立区にオープンしました。五反野駅から徒歩4分ほどのところにあります。品川区の「五反田」と響きが似ておりよく勘違いされますが、「五反野」です。様々な障がいを抱えた方が就労を目指すためのトレーニングの場所として、スキルアップをしています。オープン当時は1人の利用者さんから始まりました。どのようにサポートしていくか、施設としてどのようなトレーニングを準備するかなど手探りの中みんなで作り上げて来ました。おかげさまで来年3月で2周年を迎えます。現在は調理コース・クリーンコース・パソコンコースの3つのコースを中心にトレーニング中です。施設の中には本格キッチンがあり、お弁当販売も行っています。調理コースでお弁当づくりに携わり、調理補助等の職を目指す方もいます。クリーンコースでは足立区から委託された公園の管理や室内清掃を通じて、建物管理ビルメンのお掃除の仕事を目指しています。パソコンコースでは、ワード・エクセル・パワーポイントの基礎から応用までソフトを使って学習し、希望者は資格取得も目指せます。その他様々な資格取得も充実しております。実際に生活学館の資格応援システムを利用して初任者研修を取得し、病院のベッドメイキングのお仕事に就職した方もいます。PCのスキルアップをして大手企業の特例子会社にて事務のお仕事に就職が決まった方もいます。一人ひと

りの特性に向き合っ、生活リズムを整えるところから就職まで寄り添って支援していくのが生活学館の特徴であり、つくしの郷グループの大切にしている「つくす」にも繋がっています。

コロナ禍であまり大きなイベントはできていませんが、月に3回囲碁の先生に来てもらい、息抜きも兼ねて楽しんでいます。囲碁は「効率」の思考を身に着けることができる陣取りゲームです。働く場面でもとても役にたつスキルと言えます。また、月の最終金曜日には「五反野地域食堂」を開催しており、「福祉と地域が繋がる場」として地元の方に定着してきています。これからも多くの方の力になり、心の拠り所として安心してスキルアップできる場になって行けるよう邁進してまいります。



お弁当作りの様子



学校のような
雰囲気のお部屋



PCルーム



くつろげる
ソファースペース



本格キッチン完備

日常の当たり前

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会
大田区立うめのき園 施設長 平林 一長

「新型コロナウイルス」の影響により、日常に様々な変化が生じました。その多くは感染症対策としてやむを得ないことでしたが、「Web会議システム」については、感染症対策以上に、移動時間の削減、コストの削減（会場費・交通費）等、利便性が注目され、おそらくコロナ収束後においても活用され続けていくのではないのでしょうか。

当初はこのシステムに慣れない方も多く、マイクをミュートせずにおしゃべりしてしまったり、逆にミュートを解除せずに発言してしまったり、色々なトラブルがありました。また、参集とは異なり雰囲気が読み取れず、上手く話すことができないこともありました。

しかし、現在においては多くの方が慣れ、機能を効果的に活用されているように思います。

確かに便利なシステムですが、ちょっと残念なのは、Web会議システムを活用することにより、直接会ってのコミュニケーション機会が減ってしまうことです。私には悩みを相談できる施設長の仲間がおります。コロナ前は会議や研修で顔を

合わせれば、近況報告をしたり、飲みに行っただけでストレスを発散したりしていましたが、これまでは特別なことと認識していませんでしたが、このような状況になってはじめてこういった機会が自分自身の心の安定に大きなウェイトを占めていたんだと実感しています。

病気になって初めて健康の有難さに気づくように、直接のコミュニケーションも機会が減ったことで、大切さに気づかされました。

感染症流行時や災害発生時は、日常の当たり前が当たり前でなくなります。だからこそ、日常の当たり前前に感謝する気持ちを持ち続けていきたいと思います。

今年8月、当事業所では3年振りに園祭「いきいき祭り」を開催いたしました。感染及び感染拡大防止対策を講じたうえでの開催となりましたので、規模も時間も大幅に短縮しての開催となりましたが、それでもたくさんの方々にご来場いただき、たくさんの元気をもらいました。

編集後記

今号が発行される令和5年1月、コロナ禍第8波がどのような状況になっているのか、原稿を書いている11月末の時点で気がかりです。インフルエンザも含め、感染症の社会的影響力の大きさを実感する今日この頃です。そんな中、利用者さんご家族の福祉を守るために、日々の勤務に励んでいる部会会員各施設と事業所の職員皆様に、改めて敬意を表したいと思います。コロナに負けず、頑張りましょう。

令和5年こそコロナが終息し、以前のような人々が触れ合い、気兼ねなく明るく交流出来る普通の生活が戻ってくることを願っています。

(八幡学園 久保寺 玲)